

2 級建築施工経験記述

タイプA

施工計画

経験記述文を書く前の注意事項

1. 試験の工事概要は予め設定されています

工事概要イ「新築」、ロ「解体」又はハ「改修」の3つの建築工事の中からいずれか1つ選び、解答用紙の「選んだ工事概要」欄の該当する工事概要を○で囲んで下さい。

記述の内容は必ず選択した（新築・解体・改修）内容で記述して下さい。

2. あなたの受験種別の内容で記述して下さい。

あなたが受験申し込みの際に申告した種別（建築・躯体・仕上げ）の中からいずれか1つ選び、解答用紙の「選んだ工事概要」欄の該当する受験種別を○で囲んで下さい。

記述の内容は必ず選択した（建築・躯体・仕上げ）内容で記述して下さい。

★実際の試験では、選択した工事概要・申請した受験種別と違った内容で記述すると大幅に減点されますのでご注意ください。

2 級建築施工経験記述 問題用紙 タイプ A 「施工計画」

問題 1 建築工事の現場を管理していく上で、**施工計画時**におけるあなたの考えについて、今日までの経験を踏まえ、次の 1. 及び 2. の問いに答えなさい。

なお、建築工事には、建築設備工事は含まれないものとする。

1. あなたの受検種別に係る工種の作業において、下に示す〔施工計画時の検討事項〕及び①から③の各問いの内容を確認した上で、(1)、(2) の手順に従って答えなさい。

(1) 4 ページ・5 ページに示す工事概要イ「新築」、ロ「解体」又はハ「改修」の 3 つの建築工事の中から**いずれか 1 つ選び**、解答用紙の「選んだ工事概要」欄の該当する工事概要を○で囲みなさい。

(2) 選んだ工事概要の工事を行う上で必要と考えられる作業内容で、〔施工計画時の検討事項〕 a から c の各視点について、それぞれ①から③を具体的に記述しなさい。ただし、①の工種名又は作業名等は同一でもよいが、②及び③はすべて異なる内容を記述するものとする。

なお、選んだ工事を行う上で、施工上必要としない工事及び作業に関する内容についての記述は不可とする。

〔施工計画時の検討事項〕

- a 施工又は作業の方法
- b 資材の取扱い方法（搬出入、揚げ降ろし、保管、仮置き等）
- c 施工中又は施工後の養生の方法（労働者の安全に関する養生は除く）

① **工種名又は作業名等**

② 検討すべき**作業内容**とその作業における**懸念事項**

③ ②の懸念事項に対して有効と考える**対策**

2. 1. で選んだ建築工事及びあなたの受検種別に係わらず、**施工計画時**における

「**品質低下**」及び「**公衆災害**」の防止について、それぞれ①及び②を具体的に記述しなさい。ただし、1. と同じ内容の記述は不可とする。なお、ここで言う公衆災害とは、当該工事の関係者以外の第三者（公衆）の生命、身体及び財産に関する危害並びに迷惑をいう。

① 品質低下及び公衆災害を防止するため、施工計画時に**検討することとその理由**

② 品質低下及び公衆災害を**防止するための対策**と実施に当たって**留意すべき事項**

工事概要イ「新築」

工事内容	鉄筋コンクリート構造 共同住宅 新築工事
工 期	2024 年 1 月～2024 年 12 月

工事概要ロ「解体」

工事内容	鉄筋コンクリート構造 共同住宅 解体工事（全面解体、杭引抜き共）
工 期	2024 年 1 月～2024 年 5 月

工事概要ハ「改修」は次ページ

以下、工事概要イ「新築」及びロ「解体」の**共通の工事概要**

※敷地周辺は戸建て住宅やマンションが立ち並ぶ住宅街で、敷地北側に幅員 6m の道路が接する。

（表中「○+△+□」は○下地の上△面に□仕上げ等、下地と表面仕上げの関係を示す。）

主要用途		共同住宅 20 戸（5LDK）		根切深さ		1.2m			
面 積		敷地面積 2,350.00m ²		地 業		既製コンクリート杭（PHC 杭）			
		建築面積 900.00m2		コンクリート		普通コンクリート			
		延床面積 2,800.00m2		型 枠		コンクリート型枠用合板			
主要構造		鉄筋コンクリート構造 地上 4 階建て 風除室 一部鉄骨構造		鉄 筋		柱、梁主筋：ガス圧接継手			
				構 内 舗 装	駐 車 場		アスファルト舗装		
最高高さ		13.4m			自 転 車 置 場		コンクリート舗装		
階 高		3.0m			ア プ ロ ー チ		インターロッキング舗装		
エレベーター		乗用 6 人乗り 1 台							
主な外部仕上げ									
屋 根	陸 屋 根		アスファルト露出断熱防水 アルミ製笠木		床	廊下、階段		モルタル下地＋ビニル床シート	
	風 除 室		ウレタン系塗膜防水			バルコニー		モルタル下地＋ウレタン系塗膜防水	
外 壁	主な外壁		コンクリート打放し＋防水形複層塗材		建 具	風 除 室		ステンレス製自動扉、強化ガラス共	
	断 熱		内断熱工法 現場発泡断熱材吹付け			玄 関		化粧シート張り鋼製扉	
						窓		アルミ製サッシ、複層ガラス共	
主な内部仕上げ（居室、水廻り：天井高さ 2.4m、エントランス、風除室：天井高さ 2.5m）									
床	居 室		乾式二重床＋フローリングボード		天 井	居 室		軽量鉄骨下地＋せっこうボード ＋ビニルクロス	
	水 廻 り		乾式二重床＋耐水合板 ＋ビニル床シート			エントランス 風 除 室		軽量鉄骨下地＋アルミスパンドレル	
	エントランス 風 除 室		モルタル下地＋ノンスリップタイル						
壁	居 室		軽量鉄骨下地＋せっこうボード ＋ビニルクロス		建 具	居 室		化粧シート張り木製扉 枠共	
	水 廻 り		軽量鉄骨下地 ＋シーリングせっこうボード ＋ビニルクロス			水 廻 り		ユニットバス、洗面化粧台、 システムキッチン	
	エントランス 風 除 室		コンクリート打放し ＋有機系接着剤による小口タイル			エントランス		集合郵便受け	

工事概要ハ「改修」

※以下の概要は、改修前の既存の建物状況を示す。なお、改修後の下地及び表面仕上げは自由に設定してよい。
※表面仕上げのみのやり替え、下地共撤去復旧のどちらの工法でも可とする（建具更新も含む）。
部屋の模様替えも可とするが、構造体の改修は不可とする。
※工事期間中は、居住者不在とする。
※敷地周辺は戸建て住宅が立ち並ぶ閑静な住宅街で、敷地北側に幅員 5mの道路が接する。

（表中「○+△+□」は○下地の上△面に□仕上げ等、下地と表面仕上げの関係を示す。）
（EP-G：つや有り合成樹脂エマルジョンペイント、SOP：合成樹脂調合ペイント）

工事内容		木構造 戸建て住宅 改修工事	最高高さ		6.8m
			階 高	2.8m	
施工時期		2024 年 1 月～2024 年 4 月の 期間内で着工及び完成	基 礎		布基礎
			駐 車 場		1 台 コンクリート舗装
主要用途		住宅（5LDK）	アプローチ		タイル舗装
面 積		敷地面積 100.50m ²	囲 障	道路境界	鉄筋コンクリート腰壁の上化粧フェンス アルミ製門扉
		建築面積 60.00m ²			
		延床面積 120.00m ²			
主要構造		木構造 在来軸組工法 地上 2 階建て			
主な外部仕上げ					
勾配屋根		野地板＋平形化粧スレート	玄 関 扉		化粧シート張り鋼製扉
軒 裏		けい酸カルシウム板＋EP-G	窓		アルミ製サッシ、単板ガラス共
軒樋、豎樋		塩化ビニル製	断 熱		屋根断熱材張り、外壁断熱材充填、 1 階床下断熱材敷込み
外 壁		構造用合板＋サイディングパネル、 水切金物共			
主な内部仕上げ（洋室、和室：天井高さ 2.4m）					
床	洋 室	木床組＋構造用合板＋ フローリングボード	壁	水 廻 り	木下地＋シーリングせっこうボード ＋ビニルクロス
	和 室	木床組＋構造用合板＋畳敷き、 一部縁甲板張り	天井	洋 室	木下地＋化粧せっこうボード
				和 室	木下地＋化粧合板
	水 廻 り	木床組＋構造用合板＋ビニル床シート	建具	洋 室	木製扉枠、額縁 SOP 塗り共
玄 関	モルタル下地＋タイル	和 室		戸襖、押入部：襖一間	
壁	洋室、和室	木下地＋せっこうボード ＋ビニルクロス	その他	水 廻 り	ユニットバス、洗面化粧台、 システムキッチン

2 級建築施工経験記述 記入用紙 タイプ A 「施工計画」

会社名	氏 名	メールアドレス

【総合評価】

☐ 合 格 圏	良くまとまっています。本試験で、この記述を再現できるようにしましょう。
☐ 準合格圏	あと一步で合格圏です。添削をもとに修正すれば合格圏に達します。
☐ 努 力 圏	改善の余地があります。文章を簡潔にし、要点をまとめて書きましょう。
添削者コメント	

あなたの受検種別・選んだ工事概要 (該当するものを1つ○で囲む)

受検種別	☐ 建築 ☐ 躯体 ☐ 仕上げ	工事概要	☐ イ「新築」 ☐ ロ「解体」 ☐ ハ「改修」
------	--	------	--

問 1 施工計画時の検討事項 a. 施工又は作業の方法

a	①	工種名又は作業名等	
	②	検討すべき作業内容 とその作業における 懸念事項	
	③	懸念事項に対して 有効と考える対策	

問 1 施工計画時の検討事項 b. 資材の取扱い方法

b	①	工種名又は作業名等	
	②	検討すべき作業内容 とその作業における 懸念事項	
	③	懸念事項に対して 有効と考える対策	

問 1 施工計画時の検討事項 c. 施工中又は施工後の養生の方法

c	①	工種名又は作業名等	
	②	検討すべき作業内容 とその作業における 懸念事項	
	③	懸念事項に対して 有効と考える対策	

問 2

「品質低下」の防止

①	施工計画時に検討することとその理由	
②	防止するための対策と実施に当たって留意すべき事項	

「公衆災害」の防止

①	施工計画時に検討することとその理由	
②	防止するための対策と実施に当たって留意すべき事項	

2 級建築施工経験記述 記入例 タイプA「施工計画」

問 1 躯体工事の場合

施工計画時の検討事項

a. 施工又は作業の方法

a	①	工種名又は作業名等	鉄筋工事
	②	検討すべき作業内容とその作業における懸念事項	柱および梁の鉄筋について、鉄筋の継手方法を検討する。梅雨時期のガス圧接継手では、継手作業が中止となり、工程が遅れることが懸念される。
	③	懸念事項に対して有効と考える対策	鉄筋の継手方法を圧接と異なり、雨や風などの天候に左右されずに作業ができる機械式継手に変更する。

施工計画時の検討事項

b. 資材の取扱い方法

b	①	工種名又は作業名等	杭工事
	②	検討すべき作業内容とその作業における懸念事項	現場で使用する P H C 杭について、杭の仮置き方法を検討する。P H C 杭の仮置き時に、杭に外力が加わることによる杭のひび割れの発生や、雨などによる杭の錆の発生が懸念される。
	③	懸念事項に対して有効と考える対策	現場に P H C 杭を仮置きするときは、地盤を平たんな均し、杭を支持する位置にまくら材を置き、1 段に並べ仮置きする。仮置きした P H C 杭には、シートで覆って養生する。

施工計画時の検討事項

c. 施工中又は施工後の養生の方法

c	①	工種名又は作業名等	コンクリート工事
	②	検討すべき作業内容とその作業における懸念事項	打設したコンクリートの初期養生および湿潤養生の方法を検討する。夏期のコンクリート打設は、直射日光によりコンクリート表面に急激な乾燥やひび割れを生じることが懸念される。
	③	懸念事項に対して有効と考える対策	コンクリートの打設直後には、日よけによる初期養生を行い、コンクリートの凝結終了後できるだけ早い時期には、散水による湿潤養生を行う。

2 級建築施工経験記述 記入例 タイプA「施工計画」

問 1 仕上げ工事の場合

施工計画時の検討事項

a. 施工又は作業の方法

a	③	工種名又は作業名等	断熱工事
	④	検討すべき作業内容とその作業における懸念事項	現場で吹付ける発泡断熱材について、吹付け厚さを管理できる作業方法を検討する。発泡断熱材が薄いと所要の断熱性能を得られず、厚いと表面仕上げが困難になることが懸念される。
	③	懸念事項に対して有効と考える対策	発泡断熱材の吹付け厚さは、作業中はワイヤーゲージで随時測定し、施工後は確認ピンで確認する。吹付け厚さの許容誤差は、 $-0\text{ mm} \sim +10\text{ mm}$ として管理する。

施工計画時の検討事項

b. 資材の取扱い方法

b	③	工種名又は作業名等	ガラス工事
	④	検討すべき作業内容とその作業における懸念事項	建具に使用する板ガラスの保管方法を検討する。板ガラスを平置きにした場合、工事に伴う振動によって、板ガラスがひび割れたり傷ついたりすることが懸念される。
	③	懸念事項に対して有効と考える対策	板ガラスは、室内の乾燥した場所に立てて置き、板ガラスの相互間には緩衝材を入れる。板ガラスが壁に接する部分と板ガラスの下端にゴム板を当てる。

施工計画時の検討事項

c. 施工中又は施工後の養生の方法

c	③	工種名又は作業名等	左官工事
	④	検討すべき作業内容とその作業における懸念事項	外壁に塗付ける防水形複層塗材の養生方法について検討する。塗材が乾燥するまでの期間を適切に管理しなければ、日射や強風により壁面に急激な乾燥やひび割れを生じることが懸念される。
	③	懸念事項に対して有効と考える対策	気温が 5°C 以下、湿度が 85%以上になる場合は施工を中止する。夏期に直射日光を受ける壁面に施工する場合は、シート等で囲って養生し急激な乾燥を防ぐようにする。

2 級建築施工経験記述 記入例 タイプA「施工計画」

問 2

「品質低下」の防止

①	施工計画時に検討することとその理由	防水工事の下地の乾燥不良を防止する施工方法について検討する。
		下地の乾燥が不十分であると、防水層がふくれて、漏水の原因となるため。
②	防止するための対策と実施に当たって留意すべき事項	下地をブラインダーで平滑にしてから補修を行ない、下地の乾燥
		期間を十分にとる。乾燥後は、高周波水分計を用いて下地の含水率が 8%以下であることを確認する。

「公衆災害」の防止

①	施工計画時に検討することとその理由	外壁塗装工事の塗料の飛散を防止する対策について検討する。強
		風等によって塗料が飛散し、歩行者や近隣住宅に付着することがあるため。
②	防止するための対策と実施に当たって留意すべき事項	外壁足場の外周にメッシュシートを設置し、建物全体を覆う。メッ
		シュシートと支持材の取り付け及びメッシュシート相互の取り付けは、メッシュシートの縁部で行い隙間のないよう取り付ける。